

# プロジェクトコーナー

## — キアへにも簡易水道開通！ — <松尾建設基金事業>

マラパタン町キナムバランガイのキアミとシラルの二つのコミュニティには HANDS の助成金事業で簡易水道があります。しかし隣接するキアへには、水不足に起因する病気が多いだけでなく、乾季には農作物が枯れるなどして生活は困窮し、村を出て州都アラベルやジェネラルサントスで職探しをする住民が増えました。学校を出ていない住民に仕事はなく、村に戻っても荒れはてた畑の生産性は低く、盗みが横行し、治安悪化が懸念されていました。

このように水道建設への強いニーズがあったところへ、3km 先に 9-12 秒/ガロンという 40 世帯のために十分な水源が見つかり、あとは資金があれば…という状況にありました。幸い、形が残る意義ある事業にと昨年 5 月にご寄附いただいた松尾基金を利用することで、支援を即決することができました。

CMB のキアミ分校と同じく、キアへに至るには、蛇行する河川を 30 回以上トラックで横切らなければなりません。水道の主たる資材であるパイプとセメントを運ぶだけで多くの日数を費やし、この 5 月にようやく完成しました。これまでも巡回診療や衛生指導、薬草利用講習などのヘルスプログラムを通じて消化器系疾患の減少に努めましたが、きれいな飲料水を得たことで、これらの HANDS 医療支援、衛生指導も効果が出ると期待されます。



竣工式のあと、貯水槽の前で

## — ラムアフス小学校校舎建設(ラムブソンコミュニティ) —

1 年前の会報で設計図を紹介したラムアフスの教室は、この 7 月 26 日、ラムブソンのフィエスタとともに竣工を祝うことになりました。ふもとから急斜面を人力または馬で資材を運ばなければならない地域で、雨季には全く仕事にならず、作業が遅れていました。

すでに新学期が始まり、合計 122 名の入学手続きを済ませた子どもたちが、新築の校舎の一部を使って授業を受けています。今年度もマリオ先生(5、6 年担当)、テルマ先生(3、4 年生担当)、セリア先生(1、2 年担当)と、教師 1 人が 2 学年ずつ受け持ちます。校舎ができあがれば学年毎に分かれて授業や自習ができます。



馬で木材を運ぶ

## — 保健ボランティア育成によるモロの村の医療改善事業 — <今井記念海外協力基金事業>



前年度の評価及び本年度の打ち合わせ。PIHS 代表のナプサさん(向かって右)とモロ女性センターのアビナさん(相田・山崎 5 月出張時撮影)

PIHS(Pasasambao Integrated Health Service) との協働事業であるイスラム民族の村への地域医療支援は今年 4 年目を迎えました。

巡回診療対象(3 村各 2 回)、保健ボランティア研修(4 村対象約 20 人)は従来と同様ですが、本年度は新規に Health Spot (健康センター)を 3 村に設置します。過去の事業で、保健ボランティアの能力アップが図られ、患者への対応や医薬品管理ができるティナガカン、シギル、キアンバの 3 箇所です。

なお、例年、4-5 月は、事業の中で夏休み期間を利用した男児の包莖切開手術が行われます。従来は不衛生な状況で実施されたため、傷口から細菌が入り命を落とすケースもありました。これは、小規模外科手術実習として昨年の保健ボランティア研修に含め、すでにその技能を修得しています。